

令和6年度上牧町総合計画等外部検証委員会（第2回）会議録

【日 時】令和6年11月21日（木）9時30分～12時00分

【出席者】（50音順）

（委員：8名）

中山委員、鶴谷委員、大西委員、呉羽委員、中林委員、東谷委員、安中委員、阪本委員

（事務局：総務部企画財政課）

中川部長、中本課長、土井課長補佐、高野係長、中村主事

【欠席者】6名（飯田委員、植村委員、尾崎委員、上村委員、谷口委員、辻本委員）

【傍聴人】0名

【議事概要】

1 開会

・8名の委員が出席であるため、会が成立していることの説明

2 第2期上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

○社会教育課

【1-1-1.子どもの学習向上支援】

担当課：＜「①学習支援教室（まきっ子塾）の開催」について説明＞

安中委員：町や先生が一所懸命取り組んでいただいていることは承知であるが、やはり家庭での学習、保護者の力というのは大きいと考える。家庭学習との兼ね合いをどのように考えるか。

担当課：働かれている保護者が非常に多くなっており、保護者が子どもの家庭学習を支援することが難しくなっているのが現状である。そのような背景があり、週に1回だけでも放課後学習をみてほしいという需要があり始めたのがまきっ子塾であるため、各家庭によって家庭学習の程度はそれぞれであると考えている。

安中委員：学力の低下は危惧されているところである。家庭学習について、保護者への働きかけをしてはどうか。

担当課：水曜日の放課後にまきっ子塾として1時間学習をみさせていただき、子どもに元気がなければ保護者が迎えに来られるタイミングで声掛けをする等保護者と連携できるように努力をしているところである。また、まきっ子塾は家庭学習の定着に資する取り組みであると考えているが、成績は一朝一夕上がるものではないと考えている。1年生から3年生までの期間におけるまきっ子塾の取り組みによって、家庭学習が意識付けされることを期待している。

東谷委員：教育委員会が懸念していたのは、成績が二極化しているという点であった。その点を是正しようとして始まったのがまきっ子塾である。そういった観点からまきっ子塾は一定の成果があったと考える。満足度が70.8%ということであるが、残りの29.2%の層からはこういった意見があったか。

担当課：児童と先生の相性があまり良くなかった子どもがいたことや、学習が好きではないに

もかかわらず保護者に進められて参加した児童からは否定的な意見があった。

【1-1-2. 子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト】

担当課 : <「①学校を中心とした地域コミュニティ網の形成」について説明>

安中委員 : コミュニティスクールについて、実際にどのようなことをされ、どのような成果があったか。

担当課 : コミュニティスクールは導入には至っておらず、研修段階である。

委員長 : KPI に研修開催数が入っているが、最終的には令和 8 年度にコミュニティスクールの導入について決定するのが目的か。

担当課 : コミュニティスクールについては制度としての確立はできていないが、学校地域パートナーシップ事業により地域のかたの力を借りての学校運営は既に実施しているところである。コミュニティスクールについては、学校地域パートナーシップの延長線上にあると考えているため、本町においては一定のプラットフォームは確立できていると考える。令和 8 年度に中学校統合を控えているため、学校と地域の関係性のあり方について十分考慮し、本町におけるコミュニティスクールを確立させていくのが、令和 8 年度と考えている。

委員長 : PTA や地元住民が構成員の評議会を立ち上げている地域もあると思うが、上牧町はいかがか。

担当課 : 評議会については全ての学校で行っている。

東谷委員 : コミュニティスクールの内容として学校の運営に参画するという面と、学校運営を支援するという二面性がある。全国の公立学校におけるコミュニティスクールの導入は 50%を超えてきたが、学校運営に参画している地域はまだまだ少ない。学校支援ということでは、現状上牧町は他市町村と比較しても引けを取らないだろう。こういった点に着目し、コミュニティスクールの上牧町版をつくらないといけない。また、支援団体間の繋がりを構築していかなければならないということを教育委員会として考えている。

担当課 : <「②学校支援事業の運営」について説明>

安中委員 : 共働き世帯の増加に伴いボランティアの数が減少しているなか、今までどおり全て無償でという体制が厳しいように感じる。今後このあたりをどのように考えているか。

担当課 : 日々活動いただくにあたり、必要なものについては社会教育課としても可能な限り支出し、負担のかからないように努めているところである。また、人材についても高齢化とともに少なくなっていることは認識している。課題は多くあるが、地域の意見を聞きながら協働で進めていくべき事業であると考えている。

安中委員 : ボランティアをしていただいているかたの思いを次に伝えることを住民に担ってもらうということを考えてもよいかもしれない。住民の力を借りて住民を動かすということが必要になってくると考える。

担当課 : <「③学校・家庭・地域の連携による人権教育の推進」について説明>

副委員長：PTA との共催ということであるが、開催を土日ではなく平日にしている理由は何か。

担当課：土日より平日の子どもが学校に行っている時間帯の方が参加しやすいという意見を踏まえた結果である。

【1-1-6. 青少年の健全な育成】

担当課：＜「①様々な専門講座の開催」について説明＞

安中委員：町として様々なイベントを企画すると思うが、その際に小学6年生や中学生の能力を活かすべく、企画段階から大人と一緒に参画してもらうということをされたらどうか。

担当課：ジュニアリーダー研修においても次回の研修をどういったものにするかということを考える機会があるため、企画段階から中学生や小学校高学年の意見を取り入れることを検討する。

委員長：内容によって参加者は異なると思うが、ある程度誰でも参加しやすい企画・方法がよいと考える。

担当課：参加しやすいようにするために、チラシを小中学校幼稚園を通して持ち帰っていただいている。

東谷委員：なぜスポーツ系はないのか。

担当課：スポーツフェスティバルという形で別途開催しているが、今後体験学習としてもスポーツ系の取り入れを検討していく。スポーツフェスティバルの内容については、様々なかたに参加していただけるよう体力測定やニュースポーツ体験、奈良のプロバスケットボールチームであるバンビシャス奈良のかたによるバスケットボールのクリニックを開催したところである。令和6年度においては、元Jリーガーのかたにお越しいただき、上牧第三小学校の芝生を活用したクリニックを開催した。今後はこのようなことを広げていくため、活動内容を検討をしていく。

委員長：様々な機会を子どもに提供していくということは非常に良いことであると考えている。同時に地域にも様々なサークルがあると思うので、行政が直接手がけることも重要であるが、地域の資源を活かしていくことも検討してもらいたい。

担当課：＜「②青少年の生涯学習機会の確保と次世代の育成」について説明＞

委員長：子ども会が縮小しているということであるが、それなりの活動はあるのか。

担当課：一部は活動しているが、全地区活発に活動しているわけではない。

委員長：子ども会を通じてリーダー養成ができていた頃とは変わってきていると考える。地域の様々な可能性を考えてリーダー養成ができると良いと思う。

安中委員：子ども会が衰退している理由の一つに役を任されることが負担だということがある。一部地域ではアンダー18という考え方のもと、18歳までの子は自治会の子どもという考え方をし、まち全体で育てるというような考え方をしているところもある。考え方の転換が必要かもしれない。

委員長：評価がBということで、従来の参加募集方法だけではなく、地域で青少年の次世代リーダーを育てるという枠組みについて考えるといいかもしれない。

【3-1-2. 地域資源の整備】

担当課：＜「①史跡上牧久渡古墳群を中心とした文化財の保存及び整備の推進」について説明

中林委員：町外から人を呼び込むとありますが、ターゲット層は海外のかた、県外のかた、県内のかた、どのようなかたを想定しているか。

担当課：近隣のかたも含めた全ての町外のかたを対象としている。

中林委員：この施策は観光に繋げるものであるか。あるいは、人口流入に繋げるものであるか。

担当課：本町は文化財が潤沢なまちではないが、上牧久渡古墳群、片岡城跡といった観光資源をもとに、本町の PR や町のブランディング効果を期待するところである。上牧町にお住まいのかたについても古墳や城跡のあるまちとして郷土愛の醸成を図っていきたいと考えている。

委員長：評価が B となっているが、その理由はなにか。

担当課：本事業については国庫補助事業という形で事業展開をしている。基本的に国の補助が 50% であるが、本町が要求する額が満額つくとは考えにくい。令和 12 年度までの継続事業であるが、補助金を活用してできる範囲を模索しながらその積み上げで完成を迎えるというものである。本町の財政状況を勘案しながら支出をしていくというものであるため、今後の展望を含め評価を B としている。

【3-2-1. 地域活動の支援・促進】

担当課：＜「①歴史ガイドボランティアの養成」について説明＞

副委員長：ボランティアの数が減少しているということであるが、対応策はあるか。

担当課：歴史ガイドボランティア養成講座は令和 2 年度から開始したが、辞めていくかたが増えているのが現状である。その対策としてボランティアの会を発足させ、広報を利用して募集を行った結果、3 名の増加に繋がった。今後啓発活動を行うなかで、声掛けを行う等、ボランティアの会の会員数を増やしていきたいと考えている。

副委員長：何とかボランティアをしていただけるかたを探しているという現状だろうが、大きめのイベント等の機会を活用してってもらいたい。

○教育総務課

【1-1-1. 子どもの学習向上支援】

担当課：＜「①ICT を活用した教育支援」について説明＞

安中委員：全国的にタブレットの導入が進んでいるが、その導入には多額の費用が必要になっていると思う。また、実際は重たい教科書の代わりになっているわけでもなさそうだが、上牧町にタブレットは必要なのだろうか。

担当課：日本国内のほとんどの市町村で ICT 機器を活用した学習に移行している。本町においても ICT 機器を十分活用して授業内容を充実させていくような取り組みをさせていただいている。また、学校には充電保管庫を整備しているため、持ち帰り学習の際以外は学校に保管しており、授業の必要な際に取り出しているという運用をしている。

安中委員：ICT に関する熟練度は先生間にも差がある。学校の先生の負担を軽減するために ICT

に詳しい住民を募集し、教えてもらうというようなことはできないか。

担当課：先生間の差を平準化し、ICT 機器を使いこなしていただくために、以前は ICT 支援員にその指導者的役割を担っていただいていたところである。現在は研修を開催する等して、改善を図っていると考えている。

安中委員：指導者の募集はしているか。

担当課：現在募集はしていないが、ICT 関係で関わりのある業者と話はしている。

安中委員：住民のなかには眠っている能力をお持ちのかたが多くいると思うので、考え方を变えて一般募集してみてもどうか。

担当課：募集していくとなると予算との兼ね合いがある。人材バンクの活用も視野に検討していきたい。

東谷委員：なぜ上牧町に ICT が必要なのかというところだが、文科省の教科書改訂もあったが、必須化になっているというところがある。一方で、専門的な先生がおらず、使いこなせる先生も少ないというところで、なかなか進んでいないというのが現状である。小学校・中学校のプログラム教育をいかに進めていくかというのは上牧町の課題の一つであるが、講師がいないという問題がある。また、講師の派遣を依頼すると高額である。この問題は上牧町に限った話ではない。現状は無用の長物となってしまっているのは否めないが、まずはハード面から整備しているというのが現状である。

委員長：ICT は便利な面もあれば、危険な面もある。使いこなせる人とそうでない人の間に差が生まれるのは間違いない。この地域の子どもだけ遅れるというわけにはいかないのので、最優先課題として取り組んでもらいたい。研修についても 20 代の先生と 50 代の先生を同じように扱うのは厳しいだろう。教員の授業分担等も見直ししながら、情報機器を活用した授業のあり方を考えてもらいたい。

【1-1-4. 就学前児童への教育・保育カリキュラムの充実】

担当課：＜「①就学前の学習環境の充実＞

東谷委員：保育所の子に対する取り組みについても把握されているか。

担当課：所管がこども未来課となるため詳細は把握していない。

東谷委員：幼稚園も保育所も基礎的な教育や英語教育については、ある程度レベルを合わせた教育をしていく必要があると考えるが、そのあたりについて連携はとれているか。

担当課：幼稚園と保育所では対象者も一部異なるため全て同じというわけではない。しかし、英語教育、体育教育、特別支援教育の充実という点について、スタッフの配置は同じような形で取り組みをしている。

委員長：2015 年から新制度に変わり、できるだけ全体的に見ていこうというように制度上は動いていると思う。子どもがどこにいても同じようなことが学べて、経験できるように取り組んでもらいたい。KPI にある幼稚園児と小学校児童の交流とはどのようなものか。

担当課：年長児が小学校にスムーズに進学できるように、幼稚園から小学校に行って交流を実施している。

【1-1-5. 多様な学びの場における支援】

担当課 : <「①通級指導教室（ペガサス教室）の充実」について説明>

特に意見等なし。

【1-1-6. 青少年の健全な育成】

担当課 : <「①キャリア教育及び職業教育の実施」について説明>

中林委員 : 町内事業者の選定理由を教えてください。また、受け入れ事業所の負担が大きくなっているとのことであるが、実際にこういった声があったのか。どちらかといえ
ば、先生の負担が大きくなっていると感じるが。

担当課 : 選定理由については学校主体で選ばれているため教育委員会事務局では詳細は把握できていない。子どものニーズに合わせてお声がけをさせていただいていると推測する。受け入れ先、先生どちらにも負担はあると思うが、特に上牧第二中学校については職場体験なので、お店のかたにご迷惑をおかけしたり、ご負担になったりしているのではないかと懸念しているので、課題として今後工夫を図っていきたい。

副委員長 : 毎年上牧中学校は事業者をお呼びし、全員が参加するというスタイルで、上牧第二中学校は実際に現場に行くというスタイルなのか。

担当課 : 上牧中学校については、今回は1事業者であったが、年度によっては複数事業者にお越しいただき職業体験を実施している。

副委員長 : 上牧中学校は上牧第二中学校と比較して人数が多いから現場に行くことが難しいのか。多くの中学校では実際に現場にいて職業体験をしていると思うが、それができない理由があるのか。

担当課 : 上牧中学校においても数年前までは職場体験という形をとっていたが、学校の中で職場体験学習を違ったやり方でできないかで見直しをされた結果、今の講演方式に変わったという経緯がある。

副委員長 : 質は求めないというのも1つの考え方なのかもしれないが、できれば現場学習の方が望ましいのではないかと考える。町に愛着を持ってもらう意味でも、町内に様々な職業があるということを知るためにも、上牧中学校においては外に出ていくことを検討してもよいと考える。

委員長 : 同じ事業で同じ公立中学校同士でかなり違うなという印象がある。もちろん学校の自主性を尊重することは必要だと考えるが、事業の趣旨含め議論する必要があるだろう。

担当課 : 中学校に関しては、令和8年度に統合して1つになるということもあるため、今後見直しが図られると思う。今回の意見も参考に取り組んでいく。

【1-1-7. グローバル人材の育成】

担当課 : <「①国際交流事業（世界に伍して活躍するグローバル人材の上牧町育成事業）の推進」について説明>

副委員長：桃園の学校とは何か協定を結んで交流をしているのか。

担当課：令和元年度から姉妹校提携を結んでおり、その提携に基づいて交流をしている。

副委員長：派遣者はどのように決めているのか。

担当課：希望者を募り、最終的には25名の生徒を派遣した。

副委員長：派遣後に成果発表のようなものはあったか。

担当課：報告書としてまとめたことに加え、12月にオンライン授業交流を実施し、改めて親交を深めようとしているところである。

副委員長：今回の25名の派遣というのは、相手校との兼ね合いもあると思う。若い時に他の国に行くというのは、国際交流グローバル人材ということだけではなく、差別意識を無くすことや異文化理解を深めるという観点からも重要であると考えてるので、拡大の方向で取り組んでいただきたい。

担当課：異文化に触れるということは貴重な体験であり、有意義であったと思うので、多くのかたに参加していただきたいと考える。一方で、ホームステイという形態をとっているため、ご協力いただくご家庭の確保にも限界があり、20名程度が限度だと感じている。拡大するとなると、町全体で考えていくような取り組みとなるだろうが、今回教育総務課が実施した事業についてはよい事業であったと考えている。

○文化振興課

【1-1-2.子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト】

担当課：＜「①学校と連携した読書活動の推進」について説明＞

副委員長：KPIが貸出学校数5ということなので、どこか1校の貸出がまだということだと思うが、その原因としてどのようなことが考えられるか。

担当課：小学校の貸し出しはよくあったが、中学校への貸し出しはない状況であった。周知するためにも校園長会で団体貸し出しについて説明をし、1校は借りていただけるようになったが、もう1校はまだである。引き続き周知を徹底していく。

副委員長：学校との連携での取り組みということは理解した。本離れ対策等、質の面についてはどのような取り組みをされていますか。

担当課：貸し出し学校数5校という目標をまず基本として、そのなかで貸し出し数や子どもたちの感想、様子等を把握しながら進めていきたい。現在の子どもの様子としては、本が好きな子はいつもとは違うジャンルの本を手取る様子がみられた。また、本が苦手な子は読みやすい絵本等を手にとっていった。調べ学習に関しては、タブレットと併用されているが、本の方が読み仮名もふっているのも読みやすいという子どももいた。子どもたちの様子を観察し、取り組みを継続していきたいと考える。

東谷委員：貸し出す本というのは学校からのリクエストがあって貸し出ししているのか。それとも、図書館から選択して学校に貸し出ししているのか。

担当課：学校の先生からの要望もある。例えば、1年生に読むならどのような本がよいかという相談を受けて、図書館側で選択して貸し出すこともある。

東谷委員：子どもも興味のない本は読まないだろうから、子どもたちのリクエストを把握できるような仕組みづくりをしていただきたい。

担当課：図書館のホームページで蔵書検索ができるので、例えば子どもたちが持っているタブレットで検索していただき、読みたい本のリクエストを先生を通じてしていただくことは想定される。また、各小中学校には学校図書館司書教諭が配置されているため、そのかたと図書館職員との連携のなかで、子どもたちが欲する本についての情報を共有するということもできると考えている。

東谷委員：上牧町の現状として全国学力・学習状況調査の結果があまり良くなく、特に国語力が低いという課題がある。国語力は他の教科にも影響するので、子どもたちの読書量を増やすということについては、図書館はしっかり本を読ますんだという意気込みをもって取り組んでもらいたい。

担当課：全国学力・学習状況調査において、読解力が低いという結果がでており、学校においても教科書の内容を理解できていない子どもも相当数いると言われている。まずは、子どもたちが本を読むことにより、そこに書かれていることを読み解く力を高めていくことによって、国語以外の教科についても学力を向上させていきたいと考えている。教育委員会としても読解力を高めるための取り組みを今年度から始めているところであり、今後図書館とも連携を図り進めていきたいと考えている。

3 その他

・事務局から次回開催日時（1月下旬～2月上旬で調整予定）について案内。

4 閉会

以上